

昭和五十一年度は本学園にとって、多彩な一年でありました。年度始めの四月には「身延文庫」の落成式があり、近代建築を誇る二棟の身延文庫が完成しました。又「身延山年表」の編纂委員会と、「学内研究会」が発足して、毎月定例会が開かれ研究成果の発表がありました。

秋には同窓会の全国総会が開かれ、大勢の同窓生が三年ぶりに大学へ集まり、盛大な大会となりました。同窓会も年々会員数も増え、宗門の内外で目覚ましく活躍している会員が、母校の発展を目ざして協力しておられる姿は、尊く意義の深いものがあります。

また第二十九回日蓮宗教学研究発表大会が本学で、同窓会に引き続いて開催されました。本号にはその折りのレジメを一部掲載いたしました。(寄稿下さった方々のみ)

更に十二月には学生の「練成修養道場」が完成し、落慶式が挙行されました。(口絵写真参照)学園もこうして次ぎ次ぎに整備され、宗門の人材養成の場として、重要な役割を果しております。

「行学二道」の祖訓を体して、「宗門人」を養成する

場としては、最も恵れた環境にあるのが、本学園であると思いません。

明日の宗門を背負う人材の養成に、鋭意努力を続けている本学園の発展を目ざして、同窓諸賢・有縁諸師の御支援・御協力を切望いたします。(上田・記)

棲 神 四十九号

昭和五十二年三月二十五日 印刷

昭和五十二年三月三十日 発行

編集兼 里 見 泰 穩
発行者

印刷者 宮 田 如 龍

甲府市中央一丁目十二一三十一
印刷所 大 宣 堂 印 刷

山梨県身延山東谷

(☎NO.、四〇九一二五)

発行所 身延山短期大学学会

振替(甲府)一二七五番
電話身延(☎五六)二一〇一〇七